

員で会費未納者を退会処理した。海外団体会員の減少は気象集誌の電子ジャーナル化の影響があるかもしれないとのコメントがあった。

5. 2004年度事業計画・予算案について
2004年度の案に対し、今後修正していく。
6. 第33期役員選挙について
11月17日に第一回選挙管理委員会が開催された。「天気」11月号に告示が掲載される。
7. 第2回評議員会の形式と議題について
第1回評議員会で提示された問題点に対する気象学会の回答を示す。藤谷徳之助会員から評議員になることの受諾を得た。尾池和夫評議員が京大の学長になったため評議員を辞退する。補充はしないこと

とした。

8. 学会運営に関する諸問題（継続）について
会員制度の見なおし、地方支部の活動費の確保などの問題の検討を継続する。
9. 韓国気象学会からの招待への対応について
2004年3月に韓国気象学会大会と同時に開催される「高インパクトの気象と気候国際会議」(ICHWC2004)への招待状が届いた。ICHWCの会議の性格の確認などを住理事に依頼した。
10. その他
日本学術会議で気象研連委員の任期延長が承認された。

2004年度山本・正野論文賞候補者の推薦募集

日本気象学会の山本・正野論文賞は、(旧)山本賞(新人賞)の発展として1990年度に発足し、2004年度はその15回目に当たります。この賞は前2年度内(2002年4月から2004年3月末まで)に発表された気象学に関連する論文の中から、基礎研究・応用技術研究を問わず、新進(受賞年度に原則として35歳未満)の研究者・技術者による優秀な論文を選び顕彰するものです。論文公表の雑誌は国内・国外を問いません。

これまでの受賞者は、'90年度：向川 均(気象大学校)、'91年度：佐藤 薫(京都大学)、'92年度：田中 博(筑波大学)、'93年度：沼口 敦(国立環境研究所)、牛丸真司(沼津工業高等専門学校)、'94年度：中村 尚(東京大学)、'95年度：小池 真(名古屋大学)、森本真司(国立極地研究所)、'96年度：謝尚平(北海道大学)、'97年度：植田宏昭(筑波大学)、小林文明(防衛大学校)、'98年度：掘之内武(ワシントン大学)、'99年度：加藤輝之(気象研究所)、山本 勝(和歌山大学)、'00年度：日暮明子(国立環境研究所)・藤原正智(北海道大学)、'01年度：谷本陽一(北海道大学)・渡部雅浩(東京大学)、'02年度：竹村俊彦(九州大学)・高谷康太郎(地球フロンティア)、'03年度：寺尾有希夫(国立環境

研究所)、榎本 剛(地球フロンティア)の22氏です。つきましてはこの趣旨に沿う候補者(論文)を選考するために、下記により広く会員からの推薦(自薦も歓迎)を募りますので御協力をお願い申し上げます。

日本気象学会山本・正野論文賞候補者推薦委員会

藤吉康志, 岩崎俊樹, 小林隆久, 中根英昭, 中村 尚, 吉崎正憲

記

1. 推薦期限：2004年4月2日(金)
2. 宛 先：〒100-0004
東京都千代田区大手町1-3-4
気象庁内(社)日本気象学会
山本・正野論文賞候補者推薦委員会
3. 推薦書記入事項：(A 4版横書き1枚程度)
 - (1) 候補者所属・氏名(可能であれば生年月日も)
 - (2) 当該論文題目・雑誌名・年・号数・頁数(可能であれば論文別刷りを同封)
 - (3) 推薦理由(共著の場合は特に候補者の貢献を明確に)
 - (4) 推薦者所属・氏名